

おかやま県民文化祭 岡山県俳人協会・俳人協会岡山県支部

第四十四回俳句大会成績

日時 令和五年十月十五日(日)
場所 岡山国際交流センター

応募句

・おかやま県民文化祭賞

夕星を入れて代田の仕上がりぬ

馬屋原純子

・岡山県知事賞

幸せをつぶさぬやうに豆ごはん

松尾 佳子

・岡山アーツフェスティバル実行委員長賞

軽やかに生きて百才雲の峰

萱原 佳子

・岡山市長賞

死者若く生者老いたり敗戦日

高村 薫青

・山陽新聞社賞

秒針の音果てしなく熱帯夜

林 佳子

・秀逸賞

父の日や遺影の父のほか知らず

難波 政子

高高と干して立夏の産着かな

佐藤 史男

小鳥来る絵本で学ぶ大宇宙

国方 一航

綴ち糸の弛ぶ歳時記夜の秋

守安 愛子

独り身の自由不自由蝸牛

白井 和子

溪谷の橋万緑を吊るしけり

左居 正恵

この先も変はらぬ暮し吊忍

大塚 功子

春愁や一本指で弾くピアノ

山県 章宏

磐座の蜥蜴太古の面構へ

三垣 博

秋めくや九番線を抜ける風

岡田たか子

麦の秋村の要の何でも屋

曾根 薫風

電工の宙に水のむ日の盛

密田真理子

・優秀賞

並ぶもの皆美しき夜店の灯
えご散るや魚板の凹む坐禅堂
手はすでに受け取る重さ黒葡萄
豆ごはんさりげなくほめ本題に
ふらここやあの頃といふやさしき日
滴りの岩を離れし時光る
腰元の腰が曲りて村芝居
海へ出て鳶六月の風に乗る
眼鏡弦耳に食い込む鑑真忌
行間に母のやさしさ冬りんご
若鮎や決めの一手の駒を打つ
ふる里は急がんでよか道をしへ
緑さす白衣眩しき医学生
車椅子降りて潜れる茅の輪かな
語りつぐ母の八月十五日
出航の転舵に窪む夏の潮

池上 美海
利國 春美
乾 真紀子
目賀 紀子
広畑美千代
藤井 智子
小林 美鈴
横田 多禾
南 登
景山 薫
熱田 素子
川池 紀夫
吉原多佳子
柴田 奈美
佐藤 千鶴
磨家 泉

・新人奨励賞

道場の畳を汗のひかりけり
少年の裏声澄むや原爆忌
冬厳し軟膏チューブ細りつつ

平野直太郎
小坂田 華
吉田 有希

・選外（入賞重複）

あめんぼう雲を蹴つては雲に乗り
下萌や歩き始めのフェルト靴
窯跡にひかる陶片小鳥来る
おもうとよ兄よ鈴生りゆすらうめ
小作料めぐる一揆史紙魚走る
水攻めの沼をのた打つ濁り鮎
千年の霊気を零す山ざくら

松尾 佳子
佐藤 史男
松尾 佳子
密田真理子
小林 美鈴
左居 正恵
曾根 薫風